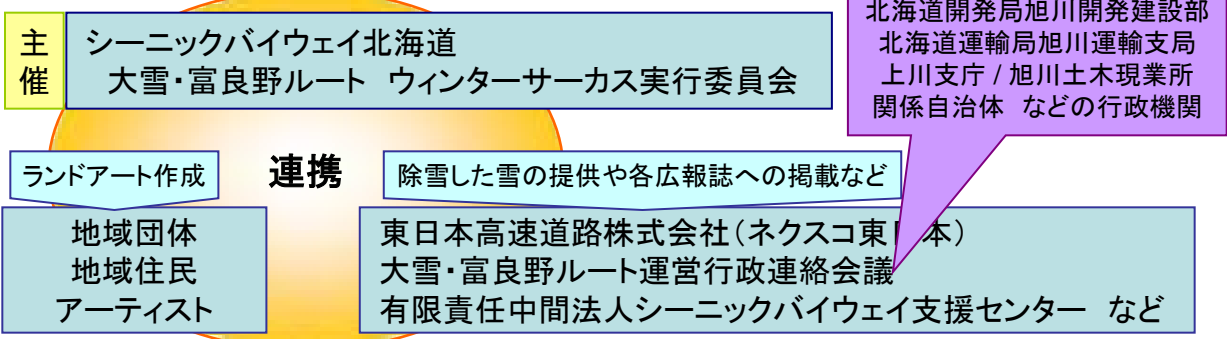


カテゴリー	景観 交流促進	活動名称	雪のアートプロジェクト「ウィンターサーカス」
地域ブロック	北海道	ルート名称	大雪・富良野ルート

①活動概要

大雪・富良野ルートでは冬の地域資源を活用した冬期観光活性化の取り組みとして、2006年より地域のNPOや商工会などの活動団体と地域住民、アーティストが協働し、ルート内各地にランド・アートを展開する「ウィンターサーカス」を実施。夜にも作品が楽しめるようプロジェクターによる映像の投影やキャンドルによる灯りの演出なども行っている。4回となった2009年は、全7会場で実施。

②活動の体制



西神楽会場の作品「WHITE CUBE」



ワークショップの様子

③苦労した点や工夫した点

- ・苦労した点→活動費用の捻出が課題があり、企業協賛などを行い活動費用の捻出を行ってきたところ。H20年度は補助金申請を行い、採択され、事業継続。
- ・工夫した点→地域に根ざした活動としての位置づけを目指し、地元小学生を対象にしたワークショップや地域の雪まつりとの共同開催などを行っている。

④活動の効果

ランド・アートを鑑賞する旭川駅発着の無料バスツアーは、常に満員となるほどの好評であり、観光活性化の可能性が見て取れる。また、制作ボランティアや地域住民には、ランド・アート作品を通して地域を見直すきっかけにもなり、地域への愛着の醸成などの効果も期待される取り組みとなっている。

⑤今後の活動

継続的な実施を目指すとともに、内容や企業など連携機関の充実を図り、冬期観光活性化及び地域に根ざしたイベントにする。

様式2 (★指定ルート)

ベストシーニックバイウェイ・プロジェクト2009

ルート名	大雪・富良野ルート
活動の名称	雪のアートプロジェクト「ウィンターサーカス」
活動期間	平成18年～平成21 (過去4年間) 平成22年も開催予定
評価の視点	①活動の持続性、②活動の地域への浸透・波及、 ③ルート運営の基盤強化、④ブランド形成・活用、⑤人材育成の充実、 ⑥その他 (シーニックバイウェイ北海道の推進への寄与)
1. アピールポイント	
<p>厳寒の地だからこそ『雪』を有効資源として「シーニックバイウェイ大雪・富良野ルート」における独自の広域での取組を活かし、冬期減少する地域の観光活性化及び冬期観光ブランド創出を目指し、「雪とアート」が融合した新たな冬期観光の取組を実施した。道内アーティスト等から『雪』でつくる『ランドアート』のデザインを募集。各地元の活動団体や住民会等がアーティスト発案の『雪のランドアート』の制作をサポートし、今までの雪像とは違う雪とアートが融合した「雪のランドアート」を、西神楽やびえい道の駅前、深山峠、上富良野見晴台公園、道央自動車道砂川SA、岩見沢SA、輪厚PAの全7会場に展開。今年度から、美瑛の道の駅会場が増え、ネクスコの高速道路会場も1会場増えた。また、ランドアート制作やイベントを地元の子供も関わり地域全体でつくりあげる取組とする為に、地元教育機関 (小学校や教育委員会等) と連携し、『雪』や『アート』『地球温暖化』等をテーマに情操教育を目的とした授業を、旭川市聖和小学校、上富良野町教育委員会と連携して展開した。</p> <p>イベント当日は、ランドアートの夜間鑑賞プログラムとして、プロジェクターによる映像の投影やキャンドルでの演出などを行い、旭川発着のバスツアーも実施した。</p> <p>【参加人数】 西神楽会場 (約200人)、美瑛町 (約900人)、深山峠 (約200人)、上富良野会場 (約600人) バスツアー参加者 (61人/2日間) ※美瑛会場は周辺でも冬のイベント開催</p>	
2. 創意工夫、苦労した点 (前回からの改善、向上させた点)	
<ul style="list-style-type: none"> ・新たな開催地として、他地域 (美瑛町・岩見沢SA) との連携し、ランドアート会場数が増加した ・ランドアート作品を公募で募集したことにより、新たなアーティストの創出と新たなランドアート、夜の鑑賞プログラムのアイデアの創出 ・継続展開に向けて教育機関指定会場として、砂川SA会場は東海大学指定会場として実施した ・各会場をまわるバスツアーでは、地域の活動やランドアート自体の説明を行い、各会場ではアーティストによる作品説明を行うことで、参加者の満足度向上を目指した ・継続的な開催に向けて、自立する為に広告の募集や展開など、収入支出に関わる部分はルート法人が担い、道の補助金などを活用して活動を展開した。 	